

● 最近の県内経済

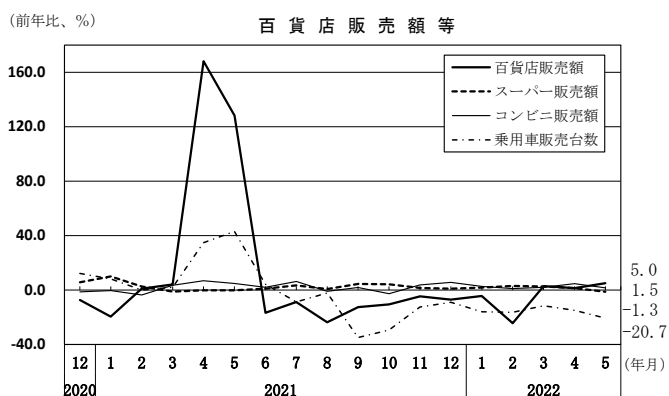
(2022年5月を中心として)

2022年7月29日

今月の概要

一部に弱さがみられるものの、個人消費を中心に持ち直しの動きがみられる。

1 個人消費 持ち直しの動きがみられる



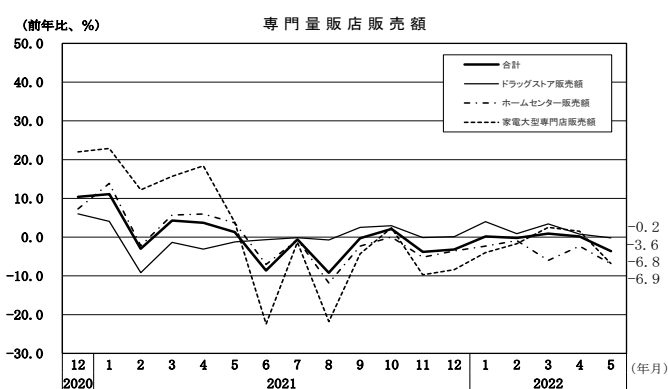
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

5月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が120億円で前年比5.0%増（3か月連続の増加）、スーパーは987億円で同1.3%減（12か月ぶりの減少）となった。また、コンビニ販売は547億円で同1.5%増と、7か月連続の増加となった。

また、乗用車販売は、前年比20.7%減と11か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同23.8%減）は9か月連続の減少となったほか、小型車（同16.1%減）、軽乗用車（同20.6%減）は、いずれも12か月連続の減少となった。

百貨店やスーパー、コンビニにおいては、行動制限が無くなり、外出機会の増加、催事の再開などが売上に寄与した。

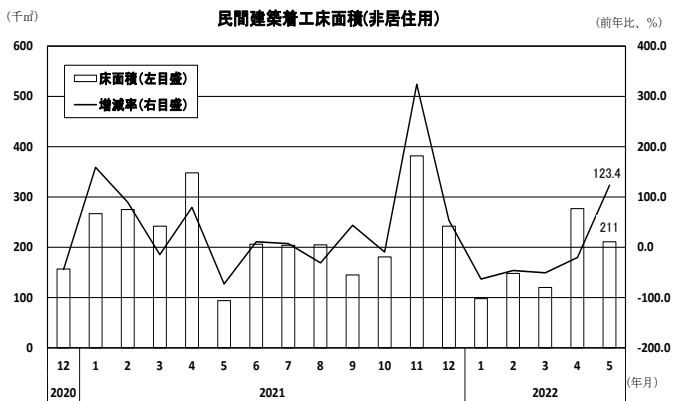


(資料) 経済産業省

5月の専門量販店販売額は、750億円で前年比3.6%減となった。内訳をみると家電大型専門店が183億円で同6.8%減（3か月ぶりの減少）、ドラッグストアが377億円で同0.2%減（6か月ぶりの減少）、ホームセンターが190億円で同6.9%減（7か月連続の減少）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、4月〈32.2〉、5月〈33.3〉、6月〈32.7〉で推移している。

2 設備投資 持ち直しつつある

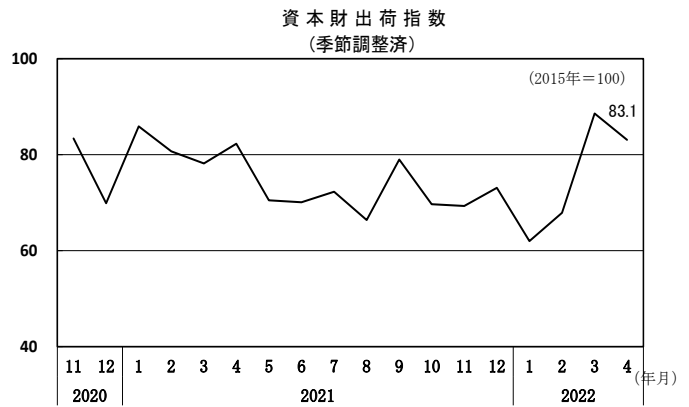


(資料)国土交通省

旺盛な半導体関連需要やEコマース関連需要に加えて、コロナ禍で見送りの案件の実行も幅広い業種でみられる。

5月の民間建築着工床面積(非居住用)は、211千㎡で前年比123.4%増となった(5か月後方移動平均では前年比30.4%減)。

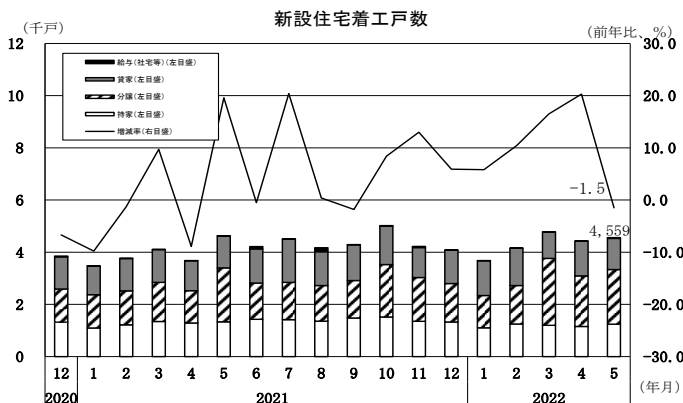
用途別にみると、事務所、店舗、工場及び作業場、倉庫が増加したものの、学校の校舎、病院・診療所はいずれも減少した。



(資料)埼玉県

4月の資本財出荷指数(季節調整済)は83.1で、前月比6.2%減と3か月連続の減少となった(5か月後方移動平均では、前年比2.8%増)。

3 住宅建設 持ち直している

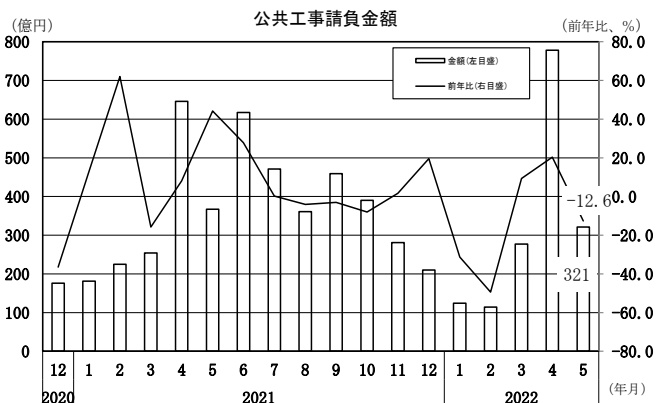


(資料)国土交通省

コロナ禍で低調だった前年の反動増もあり、持ち直している。

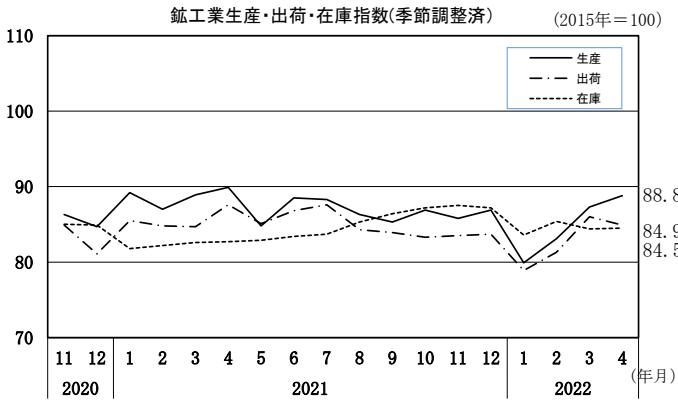
5月の新設住宅着工戸数は、4,559戸で前年比1.5%減と8か月ぶりの減少となった(5か月後方移動平均では9.9%増、13か月連続の増加)。利用関係別にみると、分譲一戸建(1,189戸)が同0.8%増となったものの、持家(1,243戸)が同6.6%減、貸家(1,194戸)が同2.1%減、分譲マンション(857戸)が同3.4%減とそれぞれ減少した。

4 公共工事 持ち直している



(資料)東日本建設業保証株式会社

5月の公共工事請負額は、321億円、前年比12.6%減となり、5か月後方移動平均でも前年比3.5%減となった。発注者別でみると独立行政法人等は増加したものの、国、都道府県、市区町村は減少した。



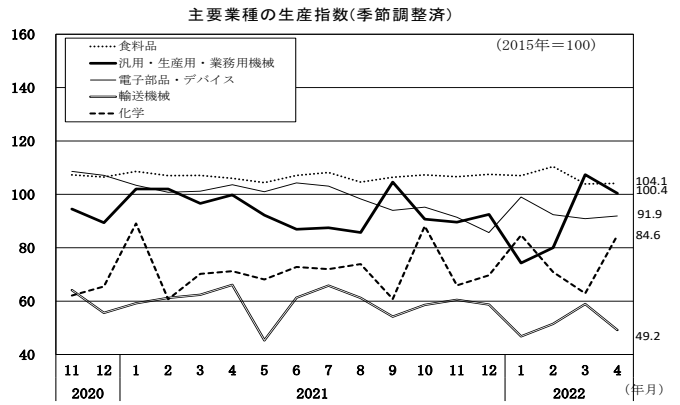
(資料)埼玉県

生産活動は、化学、汎用機械などを中心に、持ち直しの動きがみられる。

4月の金属工業生産指数(季節調整済)は、88.8で前月比1.7%上昇(3か月連続の上昇)。業務用機械品(医療用機械器具、パチンコ)、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、マシニングセンタ)などが低下したが、化学(医薬品、印刷インキ)、情報通信機械(カーナビゲーション、交換機)などが上昇した。

出荷指数(同)は、84.9で同1.3%低下(3か月ぶりの低下)。生産用機械(半導体製造装置、金型)、汎用機械(空気圧機器、コンベヤ)などが上昇したが、業務用機械品(医療用機械器具、パチンコ)、輸送機械(乗用車、自動車エンジン)などが低下した。

在庫指数(同)は、84.5で同0.1%上昇した(2か月ぶりの上昇)。家具(システムキッチン)、生産用機械(整地機械、マシニングセンタ)などが低下したが、情報通信機械(ガス警報器)、非鉄金属(伸銅製品、銅電線)などが上昇した。



(資料)埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、104.1で前月比0.2%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、100.4で同6.5%低下し、3か月ぶりの低下となった。

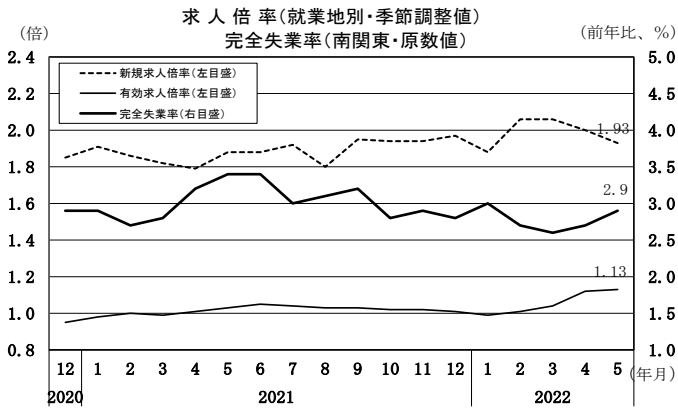
◆ 電子部品・デバイス(同)は、91.9で同1.1%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

◆ 輸送機械(同)は、49.2で同16.5%低下し、3か月ぶりの低下となった。

◆ 化学(同)は、84.6で同34.5%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

6 雇用情勢

持ち直しの動きがみられる



(資料)厚生労働省、総務省

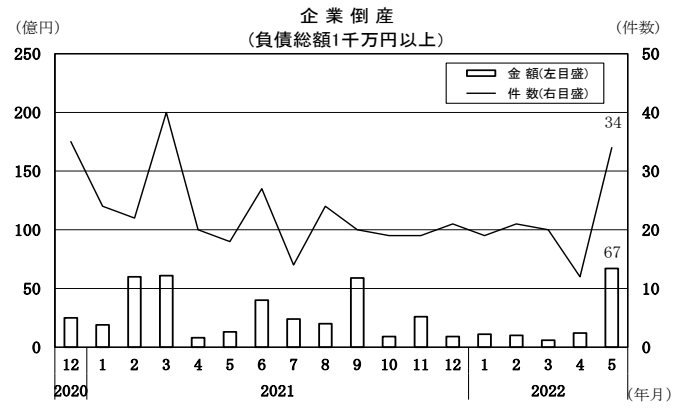
2020年春以降のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制されていたが、ここに来て持ち直しの動きがみられる。

5月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.13倍で前月比0.01%上昇した(4か月連続の上昇)。また、新規求人倍率(同)は、1.93倍で前月比0.07%低下した(2か月連続の低下)。

完全失業率(南関東、原数値)は、2.9%で前年同月比0.5%低下した(前年同月比3か月連続の低下)。

7 企業倒産

件数、金額とも増加



(資料)帝国データバンク

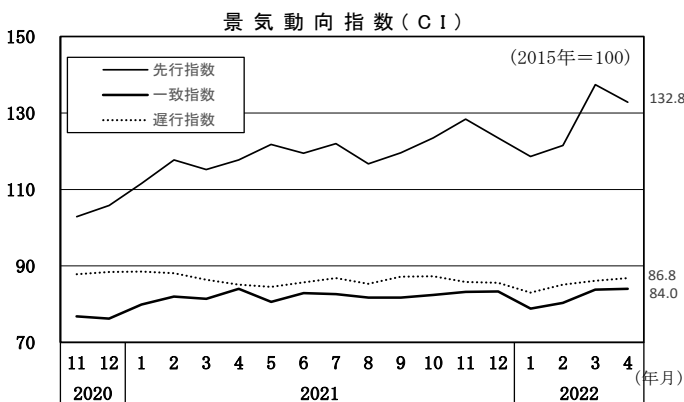
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

5月の企業倒産件数は、34件で前年同月比16件の増加となった。負債総額は67億円で同54億円の増加となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比14.5%減、金額は34.2%減)。

業種別にみると、建設業が最多で9件、次いでサービス業が8件、製造業が6件、卸売業が5件と続いている。主因別では、販売不振が29件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 足踏みを示している



(資料)埼玉県

4月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、84.0で前月比0.2%上昇し、3か月連続の上昇となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、132.8で同4.6%下降し、3か月ぶりの下降となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、86.8で同0.7%上昇し、3か月連続の上昇となった。